

授業に関する面接について（ 小学校 算数科 ）

【テーマ（課題）】

小学5年生の算数科において、単元「単位量あたりの大きさ」（教科書 P142~162）を、全12時間で扱う。全12時間のうち、前半で「単位量あたりの大きさ(5時間)」、後半で「速さ(5時間)」を扱う。単元の終末にはまとめに2時間充てる予定である。

「単位量あたりの大きさ（5時間）」の学習計画は、以下の通りである。

- | | |
|-------|---|
| 1 時間目 | 問題場面を把握し、混み具合の比べ方を考える。 |
| 2 時間目 | 単位量あたりの大きさの意味と求め方を理解する。 |
| 3 時間目 | 人口密度の意味と求め方を理解する。 |
| 4 時間目 | 混み具合以外の数量の関係について、単位量あたりの大きさを求めて比べる。 |
| 5 時間目 | 単位量あたりの大きさを求めて、その値を用いて解決する2段階の問題に取り組み、理解を深める。 |

本単元の導入（1時間目）では、混み具合の比べ方を考え、人数と面積のどちらかの量が同じであれば比較できることを確かめた。

本時（2時間目）は、人数も面積も異なる場合の混み具合を、単位量あたりの大きさを求めて比べる時間である。本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「小学算数5」教育出版 教科書 P144~145）

＜算数科における児童の実態＞ 児童数 30人（男子14人、女子16人）

- 学習の定着度には差があるが、互いを認め合おうとする温かい雰囲気がある。
- 自分の考えを言葉で表現することが苦手な児童が、一定数いる。
- 前単元「平均」の学習で、不均一な測定値をならすという見方が理解できない児童が4人いた。
- ICTを活用して学ぶことに、意欲を示す児童が多い。

授業に関する面接について（ 国語科 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年において、「根拠を明確にして書こう」を教材として、「日本語についての報告文を書こう～根拠を明確にして、自分の考えを伝えよう～」という単元を設定した。本単元は、8時間扱いとし、単元を貫く学習課題（言語活動）を「日本人の日本語に対する意識について調べ、報告文を書く」とした。

育成を目指す資質・能力は、知識及び技能については「（2）情報の整理」を、思考力、判断力、表現力等については、「B 書くこと 考えの形成、記述」を設定した。

本単元は、8時間扱いのうち、「課題を決め、調べる」ことに2時間、「構成を考える」、「レポートを書く」ことに5時間、「交流する」ことに1時間を使う予定である。また、「構成を考える」、「レポートを書く」の部分の5時間は生徒が主体的に考えて自由に学習を進められるように構想した。本時は、「構成を考える」、「レポートを書く」うちの4時間目である。大まかに報告文を書きあげた子供たちが、さらによりよくしようと友達と練り合う場面とする。

本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「国語1」P140～P145 光村図書）

＜国語科における生徒の実態＞

- 生徒は、根拠となる資料を集め、文章に書くことに慣れてはいるが、資料の引用元についての意識はあまりない。
- 生徒は、文章を書くときに、根拠を明確にしようという意識はあるが、自分の思いや考えを際立たせるための資料の使い方については、意識が薄い。

授業に関する面接について（ 社会科 ）

〔テーマ（課題）〕

第3学年の公民的分野「B 私たちと経済（2）国民の生活と政府の役割」において、「財政と私たち」（教科書 P156～167）を取り上げ、5時間の授業を構想した。第5時の「これからの日本の財政」（教科書 P164～165）の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して」P156～P167 帝国書院）

＜社会科における生徒の実態＞

- 公民的分野の学習に苦手意識を持つ生徒が多い。新聞を購読している家庭が少なく、また、テレビでニュースを視聴する習慣のない生徒が多い。
- 一つ一つの資料を適切に読み取ることはできるものの、複数の資料をもとに多面的・多角的に考察、構想し、表現することを苦手とする生徒が多い。

授業に関する面接について（ 数学科 ）

[テーマ（課題）]

第3学年において、7章「三平方の定理(P207～230)」(全13時間扱い)を扱う。

1節「三平方の定理」は5時間、2節「三平方の定理の利用」は、「平面図形への利用」に3時間、「空間図形への利用」に3時間を予定している。単元の終末には演習や活用に2時間充てる予定である。

本時は、2節「三平方の定理の利用」の「空間図形への利用」の第1時であり、三平方の定理を利用して、直方体の対角線の長さを求める場面である。P221ページを取り扱いながら、本時の授業を構想し、説明しなさい。

(教科書「中学数学3」P207～P230 教育出版)

<数学科における生徒の実態>

- 三角形を含む基本的な図形の特徴については理解している。
- 平面図形に比べ、空間図形の認識や理解が低い生徒が一定数見られる。
- 定理や公式を用いて問題解決することは得意だが、新しい定理や公式を既習から導き出すことが苦手な生徒が一定数見られる。
- 知識及び技能の力は平均的だが、思考力、判断力、表現力等に課題が見られる。

授業に関する面接について（ 理科 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年「光の世界」(P141～P158)において、「光の反射」(P144～P147)を2時間で扱う。この2時間の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「新編 新しい科学 1」P144～P147 東京書籍）

＜理科における生徒の実態＞

- 既習事項や生活体験などと結び付け、意欲的に学習に取り組む生徒が多い。
- 観察・実験の目的意識が低く、見通しをもって取り組むことができない生徒がいる。
- 実験結果から根拠をもって説明することが苦手な生徒が多い。

授業に関する面接について（ 音楽科 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年において、「曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう」という題材を2時間で扱う。教材として、シューベルト作曲の「魔王」を扱い、2時間目には、楽曲の良さや美しさについてレポートにまとめる学習を設定している。

本時（第1時）では、音楽を形づくっている要素のうち、音色、旋律、テクスチャ、強弱に着目し、語り手、父、子、魔王それぞれの部分の曲想を感じ取り、曲想と音楽の構造との関わりについて、歌詞が表す情景や心情と結びつけて理解できるようにする。

本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「中学生の音楽1」P46～P49 教育芸術社）

＜音楽科における生徒の実態＞ 生徒数32人（男子16名、女子16名）

- 歌唱や器楽などの学習に積極的に取り組む生徒が多いが、楽譜を読むことを苦手としている生徒が半数近くいる。
- ヴィヴァルディ「春」を扱った題材を学習しており、音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべて聴く活動を行っている。しかし、聴き取ったことや感じ取ったことを言葉にすることが苦手な生徒が数名いる。

授業に関する面接について（ 美術科 ）

〔テーマ（課題）〕

第2学年2学期において、「空間を彩る光の装飾」の題材を設定した。ペットボトル、針金、画用紙、色セロファン、色不織布、和紙などを使った表現とする。本題材は8時間扱いとする。

第1時では、導入の鑑賞活動と、光の装飾の使う目的や条件の説明を行った。

第2時（本時）は、教師が本題材の中で押さえる視点を示し、それを基に制作するランプシェードで表現したいことをアイデアスケッチに発想や構想を描いたり、示したりする場面とする。

本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「美術2・3上 学びの実感と深まり」P38～39 日本文教出版）

＜美術科における生徒の実態＞ 生徒数30人（男子16人、女子14人）

- 美術科の授業に意欲的に取り組む生徒が多いが、発想の場面において悩む生徒が見られ、なかなか制作が進まない生徒が一定数いる。
- 1学期に「その1枚が心を動かす」（教科書P42.43）を扱い、制作者たちの意図や伝達の効果について考える学習を行った。
- 「その1枚が心を動かす」の学習後に教師が題材を振り返ると、色彩や構図の効果について意識が集中し、作品の主題に迫ることで見方を広げられた生徒は、6割程度であった。そこで本題材では、目的や条件などを基に、用いる場面、社会との関わりなどから、自分の主題を生み出すために必要な視点に気付かせたい。

授業に関する面接について（ 保健体育科 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年において、「G ダンス ウ 現代的なリズムのダンス」を8時間扱いで行う。単元を通して、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って表現したり仲間と交流したりすることで、ダンスの楽しさを見出すことをねらいとしている。

第2時(前時)までに、オリエンテーションを行い、学習目標の確認や8時間の単元計画を伝えて生徒が見通しをもてるようにした。また、基本となる動き練習したり、動きの変化を楽しんだりした。

第3時(本時)では、基本の動きや組み合わせた動きを練習し、基本となる動きに対する自身の課題解決を行う。本時の授業を構想し、説明しなさい。

＜保健体育科における生徒の実態＞

- 1年生 男女共習 30名
- 小学校でリズムダンス等の表現運動を行っているが、ダンス分野の現代的なリズムのダンスは初めて行う。
- 単元導入時に行ったアンケートでは、ダンスが「好き」と回答している生徒が14名、「嫌い」もしくは「苦手」と回答している生徒が8名。「どちらでもない」は8名いる。「嫌い」もしくは「苦手」と回答した理由は「ステップやリズムが難しいため分からない」「恥ずかしい」という意見がある。
- 見学者はおらず、全員参加できている。

授業に関する面接について（ 技術・家庭科 技術分野 ）

〔テーマ（課題）〕

第2学年において、「D情報の技術」を題材として設定する。初めに情報の技術の基礎・基本について学び、その後、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決を行う。

本題材（P248～263）は全 10 時間を想定し、本時（P252～255）は技術分野の学習過程における「技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画」（1・2時間目）の段階である。

本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」P252～255 開隆堂）

＜技術・家庭科（技術分野）における生徒の実態＞

- 男子 15 人、女子 15 人、計 30 人の落ち着いた学級。
- 第1学年からの技術分野の学習において、「技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画」の過程を学んできている。
- コンピュータ（プログラミング）に関して、得意な生徒と苦手意識をもつ生徒の差が大きい。

授業に関する面接について（ 技術・家庭科 家庭分野 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年でB「衣食住の生活」食生活「(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴」の学習を3時間で扱う。この題材では、食生活の学習の1時間目として、「食事の役割」の学習を終えており、本時では「毎日の食習慣と健康の基本」について1時間扱いで学習する。次時は、「食事の役割と調理」の学習をし、その後「(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事」、「(3) 日常食の調理と地域の食文化」の順に進めていく予定である。

本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ」P90～P95 開隆堂）

＜家庭科における生徒の実態＞

- 年間指導計画では、B「衣食住の生活」食生活の学習については、第1学年3学期（1月）から始まり、続けて第2学年でも食生活の学習を進める。調理実習は1学期半ば（5月）と2学期後半の時期（11月）を予定している。
- 生徒は、中学校に入学して初めての食生活にかかわる学習をする。食生活にかかわる知識や経験はさまざまで、家庭の考え方が大きく影響することがあり、家庭環境や家庭での実践の状況は大きく異なる。中には家庭環境が複雑で、自身の食習慣を振り返る活動には、配慮が必要な生徒もいる。

学習前の事前アンケートでは、「食生活の学習に興味がある」「楽しみ」と答える生徒が80％程度おり、興味関心が高いことが伺える。とくに調理にかかわる学習は興味が高く、次いで栄養にかかわる学習も興味が高い。

しかし、小学校までの学習で栄養バランスのよい食事が健康にいいことは分かっているが、「おいしければなんでもいい。」「一番好きなものはお菓子。」と答える生徒もおり、調理をするという体験は楽しみにしているものの、栄養に関する知識を深めることに興味がない生徒もいる。

授業に関する面接について（ 外国語科 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年において、「Unit6 Cheer Up, Tina」の単元（教科書 P84～93）を9時間で扱う。単元の終末には、「ALT に自分たちのクラスをもっと好きになってもらうために、クラスメイトのすてきなところを伝える紹介文リーフレットを作成しよう」（教科書 P92～93）という「書くこと」の領域における言語活動を設定している。

第7時（前時）までに Part1～Part3 を扱い、3人称単数現在形を使って友達がしていることや好きなことについて紹介したり、既習表現を活用しながら自分の気持ちや考えを説明したりする活動を行ってきた。

第8時（本時）では、これらの既習の表現を用いて単元終末の言語活動に向けて、紹介文の作成と修正を行う。本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「Here We Go！1」P84～P93 光村図書）

＜外国語科における生徒の実態＞

- 男子15名、女子15名、計30名の学級。
- 英語を「聞くこと」「話すこと」については抵抗が少なく、英語が好きで積極的に言語活動に取り組む生徒が多い。
- 「書くこと」に関しては、自分の考えや思いを表現したいという気持ちはあるものの、文法事項を正しく用いて表現することや語彙の定着に個人差があり、相手に伝わらないという場面がしばしば見られる。
- 自分の考えや思いを表現することに自信がもてず、人と関わるのが苦手だと感じている生徒が少数いる。

授業に関する面接について（ 養護教諭 ）

〔テーマ（課題）〕

◇ テーマ１（保健教育）

小学校第６学年の保健の学習「病気の起こり方」の学習で、担当教師（Ｔ１）とチーム・ティーチングを行います。担当教師からは、特に「体の抵抗力」（１時間扱い）について一緒に指導してほしいと依頼があり、あなたは、アシスタント役（Ｔ２）として、その授業に参画することになりました。養護教諭としてどのように参画しますか。教科書 P49～53 を参考にしながら、養護教諭としてどのように参画するか、構想しなさい。

教科書「新・みんなの保健５・６年」（Gakken）P49～53

◇ テーマ２（救急対応）

給食が終わった昼休みの始めに、６年生の児童が、「気持ちが悪い」といいながら、保健室へ来ました。児童は、食物アレルギーを有しており、エピペン®を処方されています。保健室で経過を見ていたところ、咳き込み始めたため、処方されているエピペン®を使用し、救急車を要請しました。

児童には意識があり、咳は落ち着きましたが、吐き気を訴えています。試験委員をこの児童に見立てて、声をかけながら、救急車が到着するまでの間、安静な体位をとらせてください。（用意されたものをベッドと見立てること）また、到着した救急隊員に伝達すべき内容を考えてください。

<テーマ２の留意点>

○試験委員（児童役）は脱力した状態でいます。

○試験委員（児童役）は声掛けには返答しません。